

みずほCustomer Desk Report 2022/06/16号(As of 2022/06/15)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	135.03
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	135.28	1.0439	141.07	1.2011	0.6888
SYD-NY High	135.60	1.0508	141.50	1.2205	0.7025
SYD-NY Low	133.51	1.0359	139.56	1.1991	0.6874
NY 5:00 PM	133.81	1.0446	139.77	1.2177	0.7004
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	30,668.53	303.70	日本2年債	▲0.0600%	▲0.0100%
NASDAQ	11,099.16	270.81	日本10年債	0.2500%	0.0000%
S&P	3,789.99	54.51	米国2年債	3.2075%	▲0.2308%
日経平均	26,326.16	▲ 303.70	米国5年債	3.3717%	▲0.2279%
TOPIX	1,855.93	▲ 22.52	米国10年債	3.2896%	▲0.1876%
シカゴ日経先物	26,570.00	75.00	独10年債	1.6490%	▲0.0950%
ロンドンFT	7,273.41	85.95	英10年債	2.4630%	▲0.1290%
DAX	13,485.29	180.90	豪10年債	4.1220%	0.1420%
ハンセン指数	21,308.21	240.22	USDJPY 1M Vol	14.31%	▲0.07%
上海総合	3,305.41	16.50	USDJPY 3M Vol	12.98%	▲0.04%
NY金	1,819.60	6.10	USDJPY 6M Vol	12.17%	▲0.04%
WTI	115.31	▲ 3.62	USDJPY 1M 25RR	▲0.93%	Yen Call Over
CRB指数	314.79	▲ 0.88	EURJPY 3M Vol	13.51%	▲0.07%
ドルインデックス	105.16	▲ 0.36	EURJPY 6M Vol	12.87%	0.05%

東京	ドル円は海外市場の流れを引き継ぎ、朝方に一時135.60と高値を更新。上昇一服後、東京時間のドル円は135.28レベルでオープン。FOMCを前に様子見姿勢も強く方向感に乏しい推移が続いたが、臨時のECB理事会の開催が判明するとユーロ高・ドル安が進み、ドル円下落に波及した。結局、134.67レベルで海外時間へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は134.67レベルでオープンし、ロンドン時間夕方にFOMCを控えてこう着状態に終始。134.50レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	前日15日に、高値(135.48)引けしたドル円は、海外市場でも買い優勢の流れを引き継ぎ、135.60まで高値を更新。買い一巡後はFOMCを控え、持ち高調整の売りが重しとなり、135円ちょうど付近まで下落。欧州時間ではECB理事会の臨時会合が行われると伝わり、対ユーロでドルが売られたこともあいまって、134.30まで下押し、134.50レベルでNYオープン。朝方は6月NY連銀製造業景気指数や米5月小売売上高が予想以上に悪化していたが、市場の注目は午後のFOMCに集中しているためか反応薄でドル円も134.50近辺の狭いレンジで推移。午後のFOMCでは0.75%の利上げが発表され、初動は売りで反応し134.10まで下落するも、市場の一部では0.50%の利上げを予想していたことから米金利上昇とともにドル買いが強まり、134.96まで反発。その後のパウエルFRB議長の記者会見で「0.75%の利上げが普通になるとは想定しない」、「次回は0.50%か0.75%利上げの可能性が高い」などの発言がハト派寄りの内容として見られる中、その後は米金利低下・ドル売りの流れが強まり、133円台後半まで下落。会見終了後も上値重い推移が続く、安値を133.51まで更新。終盤はじりじり買い戻され133.81レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは1.04台前半でスタート。アジア時間は方向感乏しく推移したが、欧州時間でECB臨時会合のヘッドラインを受けてユーロ買いが強まり、一時1.0508まで上昇し、1.0459レベルでNYオープン。朝方はECB臨時会合で「PEPP再投資に柔軟性を適用する」などと伝わる中、ECBの早期利上げ観測が後退し、ユーロ売りが強まり1.04レベルを割り込む。午後もしり安推移継続し、FOMC発表直後に安値1.0359をつけるが、パウエル議長の会見を受けてドル売りが強まり、1.0470近辺まで反発。終盤は小幅反落し、1.0446レベルでクローズ。

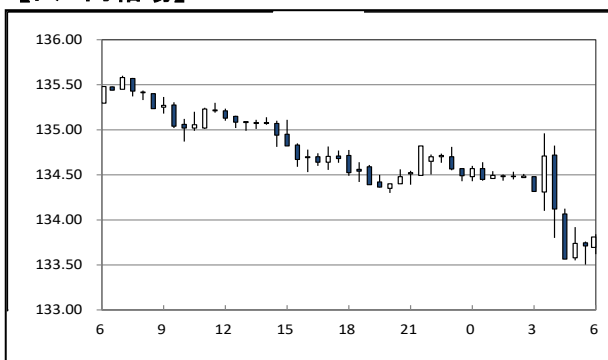
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
6月15日	11:00	中 鉱工業生産/小売売上高(前年比)	5月 0.7%/-6.7%	-0.9%/-7.1%
	18:00	欧 鉱工業生産(季調済/前月比)	4月 0.4%	0.5%
	21:30	米 NY連銀製造業景気指数	6月 -1.2	2.3
	21:30	米 小売売上高速報(前月比)	5月 -0.3%	0.1%
	-	欧 臨時ECB理事会	PEPP再投資に柔軟性を適用する	
6月16日	03:00	米 FOMC政策金利	15-Jun 1.50%-1.75%	1.25%-1.50%
	03:30	米 パウエルFRB議長 記者会見	次回は0.5%か0.75%の利上げ可能性が高い	

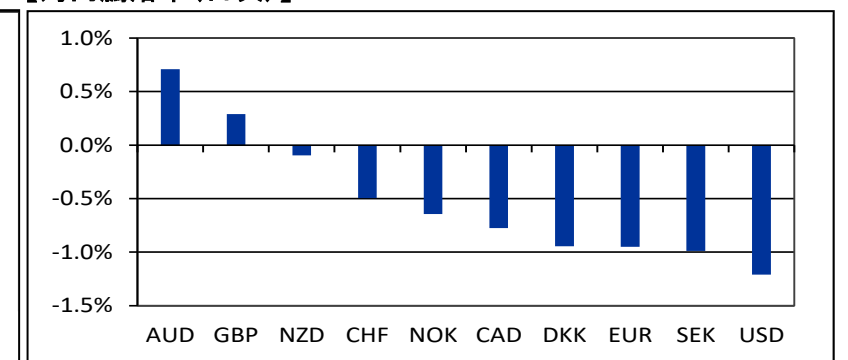
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
6月16日	10:30	豪 雇用者数変化/失業率	5月 25.0k/3.8%	4.0k/3.9%
	18:30	欧 クノット・オランダ中銀総裁 講演	-	-
	20:00	英 イングランド銀行政策金利	16-Jun 1.25%	1.00%
	21:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	5月 1693k/1778k	1724k/1823k
	21:30	米 フィラデルフィア連銀景況	6月 5.0	2.6
	21:30	米 新規失業保険申請件数	11-Jun 217k	229k

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	133.50-135.00	1.0350-1.0550	139.00-140.80

【マーケットインプレッション】

ドル円は東京時間早朝に、高値135.60まで上昇。買い一巡後は、持ち高調整の売りも入り下落。NY時間に入ると、FOMCを控えて、発表された米経済指標市場への反応は限定的で、134.50近辺の狭いレンジで推移。FOMCで75bp利上げが発表され、一時ドル買いが強まったが、その後のパウエルFRB議長のハト派寄りの発言に米長期金利が下落し、ドル売りの流れに転じた後は上値重いまま、133.81レベルでクローズした。

本日のドル円は上値重い展開を予想。前日のパウエル議長の「75bp利上げが普通になるとは想定しない」とのハト派寄りの発言から、これまでの米金利急上昇に伴うドル買いには一服感が出るか。また、足元日銀の金融政策修正観測が燃っていることも、円買いのサポート材料となる。本日は米新規失業保険申請件数、米住宅着工件数等の経済指標発表を控えており、米景気動向を見極めるうえで、こちらの内容に注目したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 田川・木村